



▲宮中の恒例行事「新嘗祭」に、県オリジナル品種「天のつぶ」の新米を献穀された猪苗代町の土屋勇雄（会津よつば農業協同組合代表理事組合長）・俊子御夫妻と二瓶町長が、昨年12月18日に県庁を訪れ、内堀知事へ献穀の栄誉の報告が行われました。

目次

- P 1** ----- **地域をリードする担い手の確保・育成と生産基盤の強化**
令和7年度新規就農者等研修会（第3回、第4回）を開催
- P 2** ----- 梁田地区のは場整備工事が完了！
- P 3** ----- 農地中間管理機構関連農地整備事業 高野地区の権利者会議開催！
- P 4** ----- **収益性が高く競争力のある産地づくり**
令和7年度喜多方地域スマート農業セミナーを開催
- P 5** ----- 福島県ブランド米「福、笑い」。食べて、答えて、もらおう！
6次化商品のマーケティング・販売実践！
- P 6** ----- 有機農業のカギ、土壌微生物について研修会を開催
認証GAP研修会を開催
- P 7** ----- ふくしま県GAP（FGAP）の認証書交付式
- P 8** ----- **資源を守り生かす、活力ある農山村の形成**
鳥獣被害対策を総合的に実施するモデル地区で実績検討会を開催！
- P 9** ----- 両沼女性ネットの活動紹介 ～さつまいも加工研修～
- P 10** ----- **受賞おめでとうございます**
みんなでチャレンジ！環境保全型農業大会2025 最優秀賞を受賞
- P 11** ----- 神田忍さん（猪苗代町）が「第27回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」国際総合部門金賞を受賞
令和7年度「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」農産局長賞受賞
- P 12** ----- 会津里山森林資源育成研究会が優秀賞を受賞
- P 13** ----- 特集：林業アカデミーから、現場の最前線へ。
- P 15** ----- **お知らせ** 山火事の防止について
- P 16** ----- 山菜を出荷する際は、御注意ください！
- P 17** ----- 令和7年度会津・南会津地方特定家畜伝染病防疫演習を実施
- P 18** ----- 「林業普及指導全体研修会」を開催

地域をリードする担い手の確保・育成と生産基盤の強化

令和7年度新規就農者等研修会 (第3回、第4回)を開催

11月28日(金)及び12月16日(火)に湯川村の道の駅あいづ坂下・湯川で研修会を開催しました。

第3回は、新規就農者向けの基礎知識について農業振興普及部職員から説明したほか、三春町から新規就農者の黒羽実樹氏と橋本剛氏をお招きし、「農業スタートアップに必要な『経営力』について」と題し、主に就農時の体験談や雇用確保に関する取組について説明をいただきました。

第4回は、「農薬適正使用・病虫害防除」をテーマに、農薬に関する使用上の注意点や不適正使用事例の紹介等について、会津坂下普及所職員から説明しました。また、作物毎(水稲、野菜、花き、果樹)の分科会に分かれて、専門の普及員が病虫害の防除のポイントについて説明しました。

当所では、今後も新規就農者の資質向上に向け支援していきます。

(農業振興普及部)



▲第3回研修会の様子



梁田地区のほ場整備工事が完了！

福島県における農地中間管理機構関連農地整備事業の第1号地区として平成31年度（令和元年度）に事業採択された梁田地区（会津美里町）のほ場整備工事が令和7年12月に完了しました。

今回の事業では、受益面積19.3haの区画整理や道路、用排水路の整備を行い、農地の大区画化が行われ、大型機械の導入が可能となりました。

今後、担い手が中心となり、高収益作物（カスミ草、トマト）の作付けや整備された大区画ほ場のメリットを生かした効率的で収益性の高い農業経営が実践されることを期待しています。

（農村整備部）

▼大区画での稲刈り



▼上空からの梁田地区



農地中間管理機構関連農地整備事業 高野地区の権利者会議開催！



▲整備された高野地区

令和7年12月12日、農地中間管理機構関連農地整備事業を実施している高野地区（会津若松市高野町）において権利者会議を開催しました。権利者会議は、所有する農地の換地計画を決めるために、事業の最終年度に行われる重要な会議です。

会議における審議の結果、換地計画が原案どおり決定しました。



▲権利者会議の様子

高野地区は令和2年度に事業採択され、令和7年度まで6年の歳月と約12億9,000万円の事業費により、地区面積66.6 haが大区画のほ場に整備されました。また、農地の大区画化に合わせ担い手への農地集積も進み、集積率は従前に比べ大幅に向上する見込みとなっています。

今後、担い手の育成が進み、他地区の模範となるような、生産性と収益性の高い農業が実践されることを期待しています。

（農村整備部）

収益性が高く競争力のある産地づくり

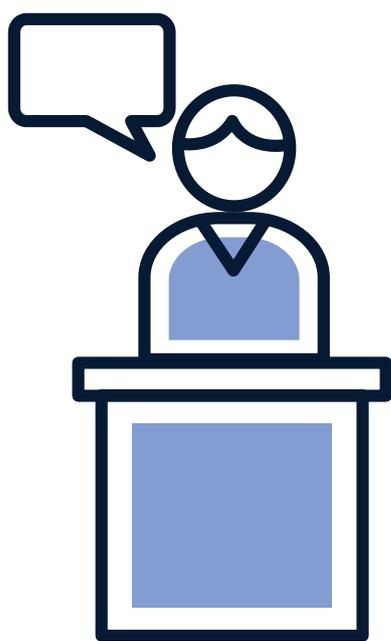
令和7年度喜多方地域スマート農業セミナーを開催

令和7年12月12日、JA会津よつば喜多方支店を会場に、令和7年度喜多方地域スマート農業セミナーを開催し、農業者等約50名が参加しました。

BASFジャパン株式会社からは衛星を活用した生育センシング技術による生育診断等の農業支援システムについて、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社からは自動操舵システムや追従アシストトラクター等の取組概要について講演いただきました。また、喜多方市塩川町のASEDA辰野博幸代表からはスマート農業技術を活用したプラスチック被覆資材の低減等のグリーンな栽培体系の現地実証について紹介いただき、スマート農業技術への関心を高めることができました。

当所では引き続き関係機関・団体と連携し、さらなるスマート農業の普及を推進していきます。

(喜多方農業普及所)



▲ASEDA代表・辰野氏



福島県ブランド米「福、笑い」。 食べて、答えて、もらおう！



令和7年12月21日（日）に芦ノ牧温泉 大川荘、令和8年2月3日（火）～6日（金）に会津・東山温泉 御宿 東鳳で「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

当キャンペーンでは、宿の宿泊客を対象に「福、笑い」の試食とアンケートを実施し、回答いただいた方には、福島県ブランド米「福、笑い」（300g）を先着順でプレゼントしました。

参加者からは、「「福、笑い」ってどこで買えるの？」「モチモチして美味しかった」などの意見が寄せられました。

今後も福島県ブランド米「福、笑い」の販売力向上に努めていきます。

（企画部）



▲「福、笑い」試食の様子

6次化商品のマーケティング・販売実践！



当所企画部では、地域産業6次化に取り組む方を支援するため、年間を通じて商品のブラッシュアップの機会を設けています。

宿泊事業者（ホテル売店）や道の駅など販売ブース担当のアドバイスを求める求評会、SNSキャンペーンの景品に用いる開発初期の収益支援に続き、今回は、一般の方に6次化商品を試食していただく「試食販売会」を福島県観光物産館で実施しました。

試食販売会には5つの6次化事業者が参加し、来館したお客様に開発した6次化商品の試食を勧め、商品への意見をいただきました。また、この日は、全国の百貨店で会津の農産物や6次化商品の販売を手掛ける「AIZU-YA-JAPAN」の池添代表にも販売アドバイザーとして参加していただき、接客のポイントを実践指導していただきました。

当所では、今後も地域産業6次化を志向する方々を重層的に支援する取組を進めていきます。

（企画部）



▲販売会の様子

有機農業のカギ、土壌微生物について研修会を開催



▲ 講演の様子

令和7年11月11日、公立大学法人会津大学において、有機農業を含めた環境にやさしい農業への取組を加速化することを目的に「会津・南会津地方有機農業推進セミナー」を開催しました。

セミナーの初めに、NPO法人日本有機農業研究会理事の吉田太郎氏から「なぜ、生物多様性(含む微生物)が豊かになると無農薬・無化学肥料が可能なのか」と題して、有機農業のメカニズムや土壌微生物の重要性について説明していただきました。次に、株式会社DGCテクノロジーチーフリサーチャーの横山和成氏から「土の豊かさを付加価値に」と題して、土壌微生物多様性の評価法について説明していただきました。

当日は農業者をはじめ関係機関・団体から69名が参加し、有機農業や土壌微生物についての知見を深めていました。

(農業振興普及部)



認証GAP研修会を開催

令和7年12月22日に道の駅あいづ湯川・会津坂下で認証GAP研修会を開催しました。県GAP推進員等を講師にグループワークを行い、各農場における労働安全のリスクの洗い出しとリスク対策の掘り下げを行いました。参加者からは、「他農場でのリスクを聞き自農場へも当てはまるものがあった。自農場を振り返る良い機会となった。」との声がありました。

(農業振興普及部)



▲ GAP研修会の様子

ふくしま県GAP（FGAP）の認証書交付式

令和7年12月2日及び令和8年1月13日に、会津若松合同庁舎でふくしま県GAP（FGAP）の認証書交付式を行いました。



▲左から遠藤所長、積田農場TSUMITAFARM・積田氏、あすばらの田中・田中氏



▲左から遠藤所長、株式会社ZEN-BU・上野氏、福楽ファーム・武田氏

○認証取得経営体（5経営体）

（1）株式会社ZEN-BU（宇野宏泰氏・会津坂下町）

有機JASを取得している水稲生産者で、穀物（米）の認証を取得しました。自然農法の考えを取り込みながら農薬無化学肥料で栽培しており、今後、「福、笑い」の生産、販売に取り組みたいとのことです。

（2）福楽ファーム（武田修氏・会津坂下町）

修氏が穀類主担当、息子の優雅氏が青果物主担当として協力しながら農業を行っており、穀物（米）と青果物（きゅうり、ねぎ）の2区分での認証を取得しました。3月に法人化を予定しており、これを機会にGAP認証を取得されたとのことです。

（3）元木博人氏（会津美里町）

有機JASを取得している水稲生産者で、穀物（米）の認証を取得しました。地域の風土を生かした米づくりにこだわり、農薬や化学肥料に頼らない持続可能な栽培方法を実践しており、「福、笑い」の生産を継続したいとのことです。

（4）積田農園 TSUMITA FARM（積田夏貴氏・会津若松市）

施設・露地野菜を多品目栽培しており、今回は出荷量の多い3品目（きゅうり、ねぎ、ブロッコリー）での認証を取得しました。GAPにより従業員に働きやすい環境整備や、販路拡大等に取り組みたいとのことです。

（5）あすばらの田中（田中圭氏・喜多方市）

10名の従業員を雇用しアスパラガスの栽培を行っており、アスパラガスの認証を取得しました。GAPの取組に通じた農産物や雇用・研修環境等の安全性の確保が必要不可欠と考えているとのことです。

安全安心な農産物生産の模範として、今後益々活躍されますことを期待しています。

（農業振興普及部）

資源を守り生かす、活力ある農山村の形成

鳥獣被害対策を総合的に実施するモデル地区で 実績検討会を開催！



北御山・南御山地区（会津若松市）におけるモデル地区が最終年度をむかえ、最後の実績検討会を開催しました。（北御山地区12月19日、南御山地区12月11日）

両地区とも、電気柵設置による鳥獣被害防止対策に取り組み、効果を上げてきましたが、10月中旬からツキノワグマの出没が増え、カキの木の枝折り被害も確認されました。実績検討会では、住民と話し合いながら、電気柵の延長や電源の増設など、来年度の改善策について検討しました。

今後は、住民主体で継続的な鳥獣被害防止対策に取り組み、地域のモデルとなる活動が展開されることを期待しています。

通常、クマは12月上旬に冬眠に入りますが、今年は冬眠しないクマが多く出没していますので、農業現場においても十分にご注意願います。なお、ツキノワグマ対策は県自然保護課のHPをご参照ください。

（農業振興普及部）



▲ 検討会の様子



両沼女性ネットの活動紹介 ～さつまいも加工研修～

両沼女性ネットは、両沼地域に住む女性が集まり、女性ならではの視点を活かしながら農業に関する講習会や県外視察研修など積極的な活動に取り組まれている団体です。これらの活動が評価され、今年度第66回福島県農業賞を受賞されました。

本年度も精力的に活動されており、令和7年12月5日には、会津坂下町広瀬コミュニティセンターにて、さつまいも（干し芋）の加工研修会が開催されました。

干し芋を作りながら会員個々の親睦を深めるとともに、完成した試食品について感想を述べ合うなど、和気あいあいとした楽しい研修会となりました。

両沼女性ネットは地域農業の更なる振興を目指して、明るく元気に活動しています。参加してみたい方は、ぜひ会津坂下農業普及所までご連絡ください！

(会津坂下農業普及所)

▼ 干しいも加工



▲ 研修会の様子

受賞おめでとうございます

みんなでチャレンジ！環境保全型農業大会2025 最優秀賞を受賞

令和8年1月16日、福島県農業総合センター農業短期大学校にて、環境保全型農業に取り組み、地域社会の発展に貢献する農業者の活動を奨励する環境保全型農業大会が開催され、喜多方市の会津よつば農業協同組合有機の里部会が最優秀賞を受賞しました。

有機の里部会は、安心・安全な米づくりに取り組んでおり、部会独自の肥料施用による化学肥料由来の窒素削減や30～40株/坪の疎植栽培の導入による高温障害の発生リスクの軽減、喜多方市内の小中学校の学校給食に特別栽培米を約40トン提供していることなど、地域に根ざした環境保全型農業の取組が評価され、受賞となりました。

今後の目標は、部会での作付面積の拡大及び出荷量の増加や会津で行われる「米・食味分析鑑定コンクール」での金賞受賞です。引き続き、JA会津よつばをはじめとした関係機関・団体と連携して、環境保全型農業を推進していきます。

(喜多方農業普及所)



▲JA会津よつば有機の里部会の皆さん

神田忍さん（猪苗代町）が「第27回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」国際総合部門金賞を受賞



▲左から遠藤所長、会津猪苗代神田ファーム・神田忍氏

「第27回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」において、猪苗代町の会津猪苗代カンダファームの神田忍さん（猪苗代町）が、最高賞である国際総合部門金賞を受賞しました。このコンクールは米・食味鑑定士協会が国内外のお米を審査・評価し、「良質な米作り」に日々精進する生産者や生産団体を支援することを目的に開催される世界最大規模のお米のコンクールです。

会津猪苗代カンダファームは、日本一のお米を最短期間で生産するために、試験栽培用の田んぼを10枚以上準備し、異なる栽培方法、肥料構成を試験、食味計での測定や実食により、最良の条件を選定し、次年度さらに条件を変えて試験するという試行錯誤を10年以上繰り返した上で、「食べておいしいお米」の栽培方法を確立しています。

今後も、当所としても、良質な米作りに向けた更なる飛躍を応援します。

（農業振興普及部）

令和7年度「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」農産局長賞受賞

会津美里町の農業法人有限会社自然農法無の会が、「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」有機農業・環境保全型農業部門で（農林水産省）農産局長賞を受賞しました。

このコンクールは、農林水産省が実施し、持続可能な農業の確立を目指し意欲的に経営や技術の改善、普及等に取り組んでいる農業者等を表彰するものです。

全国から46件の応募があったなかで、自然農法無の会は自社で堆肥舎を設置するとともに、紙マルチやアイガモロボ等新しい技術を導入し、中山間地域で持続可能な有機農業を行っている点や、加工品の開発、他地域からの若者の流入促進や人材受け入れ、大学との連携活動など多様な取組を行っている点が評価されました。

令和8年1月14日には農林水産省で表彰式が行われ、自然農法無の会のメンバーが出席し、表彰状が授与され、事例発表として取組について説明しました。

（農業振興普及部）



▲自然農法無の会・代表 児島徳夫氏（写真左）



▲事例発表する自然農法無の会のメンバー

会津里山森林資源育成研究会が優秀賞を受賞

令和8年1月30日に福島県林業研究センターで開催された「林業研究グループ等活動発表会」において、会津里山森林資源育成研究会の発表が優秀賞を受賞しました。

発表では「会津桐の苗木生産と普及を通じた桐森林資源の育成等への取り組み」と題し、会津桐の苗木生産を通じた会津桐資源の造成や普及活動について紹介されました。

発表会当日は、会の発足から丁度5年となる記念日であり、会津桐苗の植樹祭開催や群馬県水上町など他桐産地との連携、ふるさと文化財の森「西会津のキリ林」設定、「光る桐」による会津桐の価値向上及び文化財の保全活動を行う団体主催行事（日本工芸週間など）への参加報告とともに、更なる会津桐の苗木生産による資源の充実・拡大についての決意が述べられました。

（森林林業部）



▲ 会津里山森林資源育成研究会・星会長（写真左）



林業アカデミーから、 現場の最前線へ。

特集

私たちの暮らしを支える木材や、豊かな水を育む山々。その美しさを守っているのは、他ならぬ『人の手』です。今、林業の現場では人手不足という大きな悩みを抱えています。一方、地方移住や環境保護への関心から、山で働くことに興味を持つ若者も少しずつ増えています。

今回はそのような方々の中から、林業アカデミー（※1）で受講し、現在会津若松地方森林組合で勤務されている渡部 大斗さんに林業の世界に入ったきっかけや林業の魅力についてインタビューしてきました。

会津農林事務所企画部（以下「企画部」）：

会津農林高校卒業後、林業アカデミーで受講し、会津若松地方森林組合に就職されたということですが、それぞれの場所でどのようなことを学んできたか簡単に教えてください。

－会津農林高校

渡部大斗さん（以下「渡部さん」）：

高校に入るまでは林業のことは全く知識がなかったの、会津農林高校でまず「林業とは何か」から学習が始まりました。高校の実習ではチェーンソーや山林の草を刈る刈払いなど様々な種類の実習があり、とにかく楽しかったです。

高校3年生のギリギリまで自分が将来何をしたいのか決まっていなかったのですが、県職員の方が何度か訪ねてきてくださり、林業アカデミーについての話を聞いていくうちに興味が沸き、林業アカデミーでの受講を決めました。

－林業アカデミー

林業アカデミーでは、架線集材（※2）が一番大変でした。最初にワイヤーを張るときは人の手でワイヤーを持って行かないといけなかったり、ワイヤーが痛んだりすることもあるので気を付けて作業しなければなりません。

－会津若松地方森林組合

現在働いている会津若松地方森林組合では、特殊伐採（※3）（以下「特伐」）班で仕事をしています。特伐班は4人で構成されていて、2人がメインで作業し、2人が補助的な作業をします。



▲ 渡部さん



▲ 幹についた枝をはらう「枝払い」の様子

注釈

- ※1 主に新規就業希望者を対象に、1年間程度の研修で林業に必要な基礎知識・技術（チェーンソー操作、高性能林業機械の操作など）を体系的に取得するため県が運営する機関
- ※2 山林の伐採現場にワイヤーロープを空中に張り、集材機で搬器（滑車）を操作して、伐採した木材を吊り下げて集積場まで運搬する技術・方法
- ※3 住宅密集地、電線付近、傾斜地など、根元から木を倒せない危険な場所で、樹上に登りロープやクレーンを用いて枝や幹を少しずつ切り落とす高度な技術



企画部：いつ頃から林業に従事しようと思ったのか、きっかけなどあれば教えてください。

渡部さん：高校3年生の夏に行った林業アカデミーのオープンキャンパスがきっかけです。ドローンに触れさせてもらったりもしましたし、新しい施設で学べるということがタイミング的にも良かったので。

幼い頃は、勝手に庭の木をナタで切って怒られたこともあり、今、林業関係の仕事をしているのも何か繋がりがあるように感じます。父も会津農林高校出身だったのも理由にあるかもしれません。



▲切った木を決められた長さに切る「採材」の様子

企画部：

林業をやっていて良かったと思うことはありますか。

渡部さん：

会津若松地方森林組合に就職してからの1、2年目は刈払い専門で、刈払い機を使用して除伐する造林班を担当していました。除伐後にパッと後ろを振り返ってみると、刈る前に沢山生えていた木がなくなっているの、その時に達成感を感じますね。造林班は作業面積が広く、本当にこの人数でできるのかと思うこともありますが、作業を終えると達成感がすごいです。

林業アカデミーでも、造林班は最も過酷と言われていました。

企画部：就職されてから一番大変だったことはありますか。

渡部さん：去年の夏に、木に登っている先輩が落とした枝をトラックの荷台にうまく納まるように整える作業を担当したのですが、防護服を着用していることに加えて、山と違い特伐の作業場は風が全く吹いていない街中なので、とても暑くて大変でしたね。

企画部：今後挑戦したいことや目標を教えてください。

渡部さん：今は特伐班なので、高所作業がうまくなりたことと木に直接登って伐採をする特伐をやりたいです。

企画部：林業はどのような人が向いていると思いますか。

渡部さん：なかなか林業をやりたいと思うことがないと思うのですが、やろうと思っている人は向いていると思います。山で作業するときは風が吹くと気持ちいいので、山好きな人は最高の仕事だと思います。

渡部さんのある日の1日

- 7:40 会津若松地方森林組合へ出勤
- 8:40 1時間かけて作業場の猪苗代に到着
- 8:50 間伐(※4)の作業開始!!
- 12:00 お昼休憩
- 13:00 間伐の作業開始!!
- 16:00 作業終了
- 17:00 会津若松地方森林組合に帰着
- 17:15 退勤

インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご活躍を期待しています。

注釈

(企画部) ※4 森林の成長に応じて樹木の一部を伐採し、過密となった林内密度を調整する作業

山火事の防止について



▲山火事防止広報活動の様子

例年、雪解け後の春先は空気が乾燥し、山火事が最も発生しやすい時期となっています。最近では岩手県や山梨県で大規模な山火事が相次いでおり、一度発生すれば甚大な被害につながる恐れがあります。

このため、林内及び森林周辺の宅地や農地においては、下記の事柄を守っていただきますようお願いいたします。

- 1 たき火をする際には、消防署へ届け出を行ってください。
- 2 枯れ草等のある火炎が起きやすい場所では、たき火を控えてください。
- 3 たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火してください。
- 4 強風注意報、乾燥注意報、林野火災注意報、林野火災警報又は火災警報の発令時には、たき火、火入れは控えてください。
- 5 火入れを行う際は市町村長の許可を必ず受けるとともに、あらかじめ必要な防火対策を講じてください。
- 6 たばこは指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消すとともに、投げ捨てないようにしてください。
- 7 火遊びはしない、また、させないようにしてください。

(森林林業部)



山菜を出荷する際は、御注意ください！

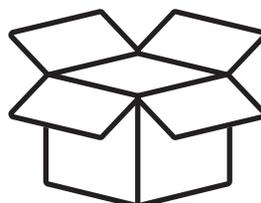


山菜の出荷制限等品目について（会津地域）

（令和8年2月現在）

市町村名	こしあぶら （野生）	たらのめ （野生）	ねまがりたけ （野生）	左記3つ 以外の 山菜
会津若松市	×	○	○	○
喜多方市	×	○	○	○
北塩原村	×	×	○	○
西会津町	×	○	○	○
磐梯町	×	○	○	○
猪苗代町	×	×	△	○
会津坂下町	×	○	○	○
湯川村	○	○	○	○
柳津町	×	○	○	○
三島町	×	○	○	○
金山町	×	○	○	○
昭和村	×	○	○	○
会津美里町	×	○	○	○

- 凡例
- :出荷制限されていません。
 - :出荷制限されています。
 - :出荷自粛中ですが、町が定める出荷・検査方針に基づき、非破壊検査機による検査を受け、基準値を下回っていると確認されたもののみ出荷することとしています。



【モニタリング検査の流れ】

- 1 出荷される方（採取者）は、採取地の市町村に検査を申し込み（検体を持ち込み）ます。
- 2 検体は、県の検査機関に持ち込まれ、検査が実施されます。
- 3 検査結果は、市町村から採取者にお伝えします。

【山菜の出荷制限に御注意ください！】

会津地域では、下記の山菜の出荷が制限されています。特に「こしあぶら」はほぼ全ての市町村で出荷制限中ですので、出荷しないようにしてください。
また、出荷制限品目については、以下に御協力ください。

- 1 制限が解除されるまで出荷・販売しないでください。
- 2 自主検査等で基準値以下でも出荷・販売しないでください。
- 3 加工品の原料に使用しないでください。
- 4 食堂や宿泊施設等で調理してお客様に提供しないでください。
- 5 フリマアプリや無人販売所での販売をしないでください。
- 6 他人への無償譲渡をしないでください（出荷・販売に含まれます）。

【モニタリング検査対象品目（野生山菜）14品目】

くさそてつ（こごみ）、こしあぶら、さんしょう、ぜんまい、たけのこ、たらのめ、ねまがりたけ、わらび（栽培含む）、うど、うわばみそう、おおばぎぼうし（うるい）、ふき、ふきのとう、もみじがさ（しどけ）

（森林林業部）

令和7年度会津・南会津地方特定家畜伝染病防疫演習を実施



▲防護服の着用



▲動員者の受け入れ



▲消毒ポイント作業

令和7年11月13日（木）、会津若松市河東農村環境改善センターにおいて、令和7年度会津・南会津地方特定家畜伝染病防疫演習を実施しました。

この演習は、高病原性鳥インフルエンザが発生した場合の初動や防疫措置等を確認することを目的に、毎年実施しているものです。

当日は、会津農林事務所及び南会津農林事務所管内の関係機関・団体から86名が参加し、①防疫作業員を受け入れる集合センター班、②防疫措置を行う現場作業班、③畜産関係車両を消毒する消毒ポイント班に別れ、各班で役割分担や作業内容を確認しました。

（農業振興普及部）

「林業普及指導全体研修会」を開催

令和8年2月2日に「林業普及指導員全体研修会」が開催され、当所からは東村主任主査が「雪起こしの施業支援」と題し、猪苗代町の暖傾斜地で発生していた積雪による植栽木の倒伏被害の原因の分析と、林業事業者が自力で行ってきた「雪起こし」への補助事業活用のための具体的な普及指導方法について発表を行いました。



（森林林業部）



▲研修会の様子



会津農林事務所SNS・あいづ”まるごと”ネットSNS 更新中



X (旧Twitter)



Instagram



X (旧Twitter)



Instagram

【ご意見・お問合せ】

福島県会津農林事務所 企画部地域農林企画課

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号（会津若松合同庁舎2階）

☎（0242）-29-5369 FAX（0242）-29-5389

